学位論文審査の要旨

学位申請者	小林　弥那美 比較社会文化学専攻2017年度生		論文題目	キルケゴールの愛の理論:隣人愛における他者の意義をめぐって
審査委員	主　　査:	中野　裕考　　准教授	インターネット公表	学位論文の全文公表の可否　:　否
	副　　査:	宮下　聡子　　准教授		「否」の場合の理由
	副　　査:	三浦　謙　　准教授		□ ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	前田　佳一　　准教授		□ イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	田島　卓　　准教授 (東北学院大学)		■ ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博　士	人文科学		□ エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Philosophy)			□ オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本論文は、西洋の倫理・宗教思想史の中で重要な位置を占めるキルケゴールの愛の理論について、従来の理解を刷新する画期的な論考です。主に論じているのは『愛のわざ』という一著作ですが、著者はエロス、フィリア、アガペーという西洋哲学、倫理学、宗教思想における重要なテーマをめぐる原理的な考察を展開しています。特定の人間を対象とした恋愛や友情に対して、万人を対象にする普遍的な隣人愛がキリスト教の核心にあるという常識的な理解を確認しつつ、著者は、恋愛や友情との両立可能性という観点から隣人愛そのものの内実を刷新します。一般に隣人愛は、対象となる人間の属性を問題にしない人間一般への愛とみなされますが、そうだとすると個々の人間を度外視した抽象的なものではないかとの嫌疑がかけられます。ここで本論文は、差異性と呼ばれる概念的特徴と、個別的な生を自己として営む固有性との区別に注目し、隣人愛とは相手がその人自身であることを肯定し喜ぶことだという注目すべき解釈を提示しています。ここからさらに本論文は、万人を等しく扱うという意味で捉えられがちな隣人愛の普遍性・平等性についても新しい理解を獲得しています。すなわち隣人愛の平等性は、神の前で個別的な自己として存在しているという意味でのあらゆる人間の同等性を肯定するという点にある、という理解です。これによって、隣人愛の普遍性が神との関係に支えられた永遠性に由来するものとして捉えなおされることにもなり、本論文は愛についての根本的な反省を迫る極めて広い射程を備えるものとなりました。
2022年12月12日に開かれた第一回審査では、形式的な不備のほかに、自己についての説明の不十分さ、現代的な問題との関連づけの不十分さなどについて、修正の必要が指摘されました。2023年2月21日に開かれた第二回審査で、それらの修正が適切になされたことが確認され、合格の運びとなりました。
以上のように、本論文は、キルケゴールの一著作を扱ったものでありながら、愛という普遍的な問題の本質にかかわる理解の更新を迫る力作であり、博士(人文科学)(Ph. D. in Philosophy)の学位にふさわしいものと判断されます。